

第 10 回（令和 4 年度）社会福祉貢献賞受賞挨拶

医療法人社団 土田病院 理事長 土田 茂

40 期卒業の土田 茂と申します。

今日はこのような貴重な機会を与えて頂いたことに心から感謝申し上げます。

ただ個人的には、私はこのような立派な賞を頂くような社会貢献は毛頭していないと思っており、この賞は 40 期の同期全員に頂いたものである、たまたま私が代表して受け取らせて頂く。このような思いで今日参りました。

私の父は本学 4 期卒業の土田幹夫、息子が今医学部 4 年生に在籍しておりますので、親子 3 代にわたり本学にお世話になっていることに御礼を申し上げます。今、私が勤務している病院は、1964 年に土田幹夫が札幌市中央区に開設しました。今年で 58 周年を迎えます。当時は病院と住居がつながっている構造になっており、私は幼少のころから父の仕事姿を見てきました。当時は救急指定を取っており、救急車がいっぱい来院して父が対応していた記憶があります。このような環境の中で、父のような医師になりたい、救急車で運ばれてくる患者さんに対応できる医師になりたい、様々な疾患の初期対応ができる医師になりたい、道端で人が倒れていたりしても、すぐに初期対応が取れる医師になりたい、そう思うようになりました。

これが私の医師としての原点です。

大学卒業後は救急医学講座、麻酔科学講座、消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座で研修をさせて頂き、先輩方や担当した患者さん、ご家族から色々な事を学ばせて頂きました。今でも病院運営において、大学各講座に支えて頂いて成り立っていることにあらためて感謝を申し上げます。私が当院で勤務し始めた時、病院は救急指定から外れておりましたが、その時に救急指定を再取得し、現在は札幌市けが災害救急当番を月 3 回、消化器二次救急当番を月 2 回、合計月 5 回の 24 時間救急診療を担当しています。現在でも、けが災害救急当番は月 3 回の当直を、特別な事情がない限り自分自身で行っています。ただ今は若手の救急医と一緒に当直をさせてもらっているので、助けて頂いていると同時に良い刺激をもらっております。そして少ないですが、私自身の経験と技術を全て彼らに伝えていきたいと思っております。私が医師になった時は、経験はゼロ。そこから先輩方や自分が担当させてもらった患者さん、ご家族から多くのことを学ばせてもらい、与えて頂き、今医師として仕事できています。全て社会から与えて頂いた賜物です。今後は、与えて頂いたものを社会貢献しながら全てお返ししたい、また後輩にも自分の持っているものを全て伝えたい。そして最後に自分はまたゼロに戻って、人生を終えていきたい、このように思っています。

スキーのことですが、大学4年生の時に全日本スキー連盟（以下SAJ）の準指導員資格を取り、スキー学校でアルバイトを始めたのが連盟とかかわるきっかけです。社会人になり指導員資格を取り、連盟役員に推薦して頂き、30、40代の頃はスキー指導員の技術指導、指導員試験の検定員、指導員養成講習の講師と現場で頑張っておりました。理事になってからは、スキー指導者の質を高めるにはどうするか、制度や仕組みはどうあるべきかなどを考える、裏方として仕事をさせて頂いています。多く同窓の先生方もスキー指導者の資格を取得して、各地でご活躍を頂いています。

実はスノースポーツ、とりわけスキーに関して、本学は古くから強いつながりがあります。本学初代学長の大野精七先生、先生はSAJの設立に深く関わり、1936年には連盟副会長を歴任されています。その後、1972年冬季オリンピック札幌大会の実行委員会副委員長として、大会の招致から関わり、そして同大会を成功に導かれました。大倉山ジャンプ競技場に「大野精七博士顕彰碑」が今もあります。これは当時の先生のご功績を記念したものです。今年は札幌オリンピックが開催されてからちょうど50年の記念すべき年です。そして正に今、2030年北海道札幌オリンピックパラリンピックの招致活動が大詰めを迎えています。今年の年末には候補都市が決定する予定になっています。

北海道、札幌は今後も課題があります。少子高齢化、共生社会の実現、老朽化したインフラ、そして気候変動、地球温暖化。オリンピックの招致はこれらの課題解決に大きな後押しになると考えています。今世界中で、自然雪で安定してスノースポーツの大会を開ける大都市は、北海道、札幌しかないともいわれています。ただオリンピックも良いことだけではありません。税金を使用せず、今の時代に適したなるべくコンパクトな大会にするべく、実行委員会が案を作成しています。大野初代学長が冬季オリンピックを招致して成功に導かれた。その当時の先生の情熱に思いを馳せ、一人でも多くの同窓の先生方に、今回の大会招致に関し、ご理解とご協力を頂けるとありがたいです。この件はどうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本日は40期の同期全員に賞を頂きました。同期のみんなが世界中あるいは日本中のどこかで、それぞれの環境や立場の中、社会貢献を頑張っていると思います。まずは健康に気を付けて、そしてそれぞれの医師としての原点を思い出しながら、これからも自分らしく輝いてほしいと願っています。また本日ご参集の先生方、同門の全ての先生方がこれからもお元気で益々ご活躍されることを心より祈っております。本日はこのような機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。